

# いきもののカタチ

カラフルな馬の群れ、ざらざらした魚、対話するような小鳥、シマシマのほどけていく縞馬…。洋画家・三岸節子の作品の中には、素朴でありながらユニークな形をした動物たちが登場します。節子と作中の動物たちの間にはどのようなエピソードがあったのか、ご紹介します。

## 画業初期に描かれた“馬”

当館には、画業初期の作で馬を主題としたものが3点所蔵されています。《月夜の縞馬》(No.2)は、縞馬の足元やたてがみから黒い線が伸び、まるで縞模様がほどけているかのような少しうまくアーティスティックな作品です。この縞馬は、1935年に節子が銀座で一目惚れした縞馬のガラス人形を元に描かれました。これを見るうち、節子は夫・好太郎が子どもたちとしていた、自由にお話をあって遊ぶ「お伽話の会」のお題に「お月様と縞馬」があったことを思い出し、その中で子どもたちが作った美しい幻想を絵にしたいと考え、着想を練ったといいます。ガラスの人形がモデルですが、絵の中の縞馬たちの動きには固さがなく、月を見上げる動作も自然に感じられます。

《群がる馬》(No.4)でも、カラフルな十数頭の馬たちの思い思いに過ごす姿が捉えられています。節子はこの頃、乗馬小屋に通い写生を重ねていました。馬たちの自然な動作にはそこでの経験が活かされています。馬をテーマにした作品は他に何点も描かれており、画業初期における関心の高いモチーフのひとつでした。



《群がる馬》1938年©MIGISHI

## 静物画の中の動物たち

花や果実、食器類といった“動かないもの”(=静物)を描く静物画にも動物の姿があります。

白一色で幾何学的な模様の魚が描かれる《花と魚》(No.8)、滑らかな水色の魚たちと対照的にデコボコとした茶色のマチエールでカレイの質感が表現された《かれい》(No.10)、赤い腹部に核のような丸い模様をもつ《とうもろこしと魚》(No.13)など、卓上に置かれた動かない魚たちは個々の特徴を強調、あるいは演出されています。

また、馬や鳥の埴輪、エジプトの鷹の彫刻など、節子がコレクションした原始美術の動物たちもよく描かれたモチーフでした。昔の人々が表したこれらの動物たちは、節子の手によって再び絵の中に描かれ、原始美術のもつ温かさや愛らしさ、生命力を作品に与えています。

《アンダーソンの壺と小鳥》(No.7)では古代の壺と共に小鳥が描かれました。白い2羽の小鳥たちは向き合い、対話しているかのようです。この絵が描かれた1950年代前半は、魚や鳥籠がモチーフに流行した時期にあたり、「鳥」という生きているものを通じてロマンチズムがほしいのでしょうか(注1)と節子は自らを分析するように語っています。

## 自らを重ねた“鳥”

また、鳥は節子自身の心象をも表した動物でした。49歳の初渡欧後、帰国した節子は1957年頃から一人軽井沢の山荘にこもり、作品制作に没頭します。そのうちで描かれたのが浅間山の鳥を描いた「飛ぶ鳥」の連作です。3人の子どもたちが全員結婚、節子の下を離れ、また画壇からも離れて活動していた孤独な時代でした。身の回りで動くものは山荘の庭にやってきた鳥だけであり、軽井沢での唯一の友であったと節子は語っています。特にキジの雄は華やかで美しかったと言いますが、連作の鳥は幾何学的な頭と翼を持ち、抽象化されています。

《飛ぶ鳥(火の山にて)》(No.12)では静謐な青一色の色彩に、薄塗りの絵肌の上からさらに絵の具を削り取った鋭い線描で描かれ、当時の節子の沈んでいくかのような孤独が表れています。

## 好太郎の猫と、魚になった節子の猫

夫・好太郎も金魚や蝶(No.26)など代表作に生きものを描いています。「グロテスクな、またファンタスティックな感じ」を表現したいと語った好太郎は、猫を擬人化したような作品を発表しました(No.28)。何をテーマとしたのか詳しいことは不明ですが、童話の世界に迷い込んだような雰囲気の作品です。

節子はというと、猫を描くことにして苦戦していました。1950年代頃には家で三毛猫を飼い、可愛がっていた節子。名前を映画『美女と野獣』(ジャン・コクトー監督、1948年公開)から“ベル”と名付けましたが、ベルの絵は未だ見つかっていません。

猫を描きたいと思つてかくんですけどいつもぬりつぶしてしまうの。あのえも、鳥と猫だつたんだけどいつの間にか魚になつてしまつた。決してアンバランスじやないけど。昨日魚屋でやつと探してカレイを買って来ました(注2)

本展では、《かれい》(No.10)を展示していますが、節子の魚の絵の下には描きかけの猫がいたのかも、と思って見てみると面白いかもしれません。



一宮市三岸節子記念美術館 学芸員 大村菜生

(注1) 1952年秋の新聞記事「秋を描く新制作派 三岸節子」より

(注2) 同上